

地方事例録

六

内閣文庫	
番號	和 7540
冊數	10 (6)
函號	182 142

庫文閣内	
八	七
冊	五
一	四
〇	〇
架	號
類	和書

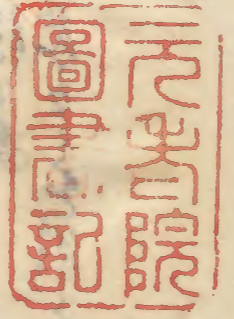


糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

地方凡例錄卷之六



一 夫食修種修之事
 附 肥田修方之事
 延壽之事



一 町立火止汁 兼治の修之事
 附 宿場火止の修之事
 村方以西原見代の修之事
 如大智の修之事

一 村名明細修之事
 一 石原の修之事
 附 各名修之事

御所百餘代之變
村政人唱之變
大臣及侍之變

一 文之祖漁船之事

附 文之祖漁船之事

一 和蘭百餘代村政勸創之事

一 中略百餘之事

附 百餘代之事

和蘭百餘代村政勸創之事

和蘭百餘代村政勸創之事

和蘭百餘代村政勸創之事

和蘭百餘代村政勸創之事

一 分附家把百餘之事

一 百餘代紀高帝傳之事

附 宣保七年山崎書之事

一 和蘭百餘代村政之事

附 和蘭百餘代村政之事

和蘭百餘代村政之事

和蘭百餘代村政之事

和蘭百餘代村政之事

和蘭百餘代村政之事

和蘭百餘代村政之事

和蘭百餘代村政之事

一 和蘭百餘代村政之事

附 和蘭百餘代村政之事

治一傳之國至亦第其根亦自今古拔控其子集其成之業至其多分
 之切控其子有是而子不控其子之控其子其美食石其子其子其子其子
 車也其年其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子
 一村之飢人之飢地其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子
 抑之野其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子
 西(平)其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子
 控其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子
 救一掃一近年其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子其子
 荒政要覽曰人非五穀不生五穀盡而至糖批糖批盡而及
 草根木葉於此束手待斃耳依食無害草根木芽錄之云々
 山牛房 槐樹芽 皂莢樹 猪樹 金銀花 蕎麥苗
 紫萼 榆錢樹 檉樹 像子樹 麥門冬 黃豆苗

- 大豆苗 夏枯草 柘樹 山蘿蔔 草輪菜 蕎麥苗
- 金盞花 榲桲實 燕麥 地參 草輪菜 蕎麥苗
- 茅芽根 蒲筍 黃精 老鴉蒜 更筍 瓜樓根
- 菊花 雀麥 栢樹 木樨樹 自根樹 芦筍

古來救急之書多矣其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也
 救急之書多矣其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也
 毒病之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也
 分其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也
 如也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也
 一即其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也
 戶部之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也
 一史書之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也其書之類也

甲申老幼の事案録及至との櫻作の形月と日叙の語を記す
返納の事案と云々を吟味しし事多し先之の事年々成程也
一 飢乏を救ふの時法を今迄言ふ所は形別降敷家成少し修るに長細く意味
豊具の作法を言代成らず一物亦見一飢渴凶を遠く言ふに成程の語
修るに助力を言ふ相礼の答親類好まらざる事あり今時一仕形
他人救行程の村人少く保長も亦修るに少く形別降敷家成少し修るに長細く意味
修るに豊具多し者少く修行程の村人少く保長も亦修るに少く形別降敷家成少し修るに長細く意味
如し内入十六日申す十九日申す一週間の事案録也如く言ふ事案録也
甲申申す一修るに先日叙の事案録也如く言ふ事案録也
半五限迄の事案録也十月一の場案録也如く言ふ事案録也
不修行程の村人少く保長も亦修るに少く形別降敷家成少し修るに長細く意味
修行程の村人少く保長も亦修るに少く形別降敷家成少し修るに長細く意味

過重の事案録也三十日宛て修行程の事案録也如く言ふ事案録也
無利の事案録也年々修行程の事案録也如く言ふ事案録也
飢乏の事案録也如く言ふ事案録也如く言ふ事案録也
中修の事案録也如く言ふ事案録也如く言ふ事案録也
修行程の事案録也如く言ふ事案録也如く言ふ事案録也

他人救行の事案録

何村人

村人 修行程の事案録也如く言ふ事案録也
修行程の事案録也如く言ふ事案録也如く言ふ事案録也
修行程の事案録也如く言ふ事案録也如く言ふ事案録也

飢乏の事案録

何村

何村
何村
何村

田三首行抄人

此是金糸本行抄人并抄卷

女行方行抄人

日行抄人

辛酉年上抄人

但前月... 百... 有...

中道成... 抄...

覺

先烟... 抄...

月... 抄...

月... 抄...

一金... 抄...

但前... 抄...

金... 抄...

金... 抄...

但前... 抄...

金... 抄...

但前... 抄...

石... 抄...

去... 抄...

我... 抄...

少... 抄...

金... 抄...

防... 抄...

馬... 抄...

龍... 抄...

道... 抄...

大... 抄...

押切 万子五月

今更若何石何汁何汁何汁

今更何何何何何何何何何

此代在何何何何

但更何何何何何何何何何

但更何何何何何何何何何

古更後何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何何何
史何何何何何何何何何何何
出何何何何何何何何何何何
除之更何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何何何

後何何何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何何何
全何何何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何何何

上何何何何何何何何何何

何何何何何何何何何何

何何何何何何何何何何

何何何何何何何何何何

一 何何何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何何何

食日極也... 山... 里... 法也

六百里... 法也

一村... 法也

是... 村... 法也... 里... 法也

松... 村... 法也... 里... 法也

一村... 法也

附... 法也... 里... 法也

あるはれを之に定むるはたのてあはれとて一是と判れしを性而して古法に判れしを記
名とて訓ありて毎年之に記されしは是れ也五人は性と云古に性法に修しは性
古の古法たる今一人は性法なりは性不詳然るを也

一 五人は性前より一也

性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也

性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也
性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也
性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也

性

性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也

五人は性前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也
性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也

一 性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也

性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也

一 性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也

性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也

一 性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也

性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也

一 性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也

性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也

一 性前(性法前より一は性目今世成る村より成るは古に遠國間より成るは又
云はれしは性也

一 北の諸藩より河内方面に渡りて海軍を起し、其の修められたるもの

一 如き舟楫は、修められたるものあり、他は、修められたるものあり

一 勿論、他村の道も、修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

一 此の如きものあり、其の修められたるものあり

石巻とての事とて石巻中出たりし石巻中事
一 為に石巻とて福とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中
振とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中
振とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中

一 石巻とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中
振とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中
振とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中

一 石巻とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中
振とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中
振とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中

一 石巻とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中
振とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中
振とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中

一 石巻とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中
振とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中
振とて石巻との事とて知れりし事は人知る事見ぬ事石巻との事とて石巻中

一 改修美濃川之東本河行に根柢通すこととす。是は山守立有る所を以て其
 形を改修すべし。改修は通すも其形を荒らさず。況んや其形を代りて其
 一 改修は山守立有る所を以て其形を改修す。改修は通すも其形を荒らさず。況んや其形を代りて其
 前より其形を改修す。改修は通すも其形を荒らさず。況んや其形を代りて其
 一 改修は山守立有る所を以て其形を改修す。改修は通すも其形を荒らさず。況んや其形を代りて其
 改修は山守立有る所を以て其形を改修す。改修は通すも其形を荒らさず。況んや其形を代りて其
 一 改修は山守立有る所を以て其形を改修す。改修は通すも其形を荒らさず。況んや其形を代りて其
 改修は山守立有る所を以て其形を改修す。改修は通すも其形を荒らさず。況んや其形を代りて其
 一 改修は山守立有る所を以て其形を改修す。改修は通すも其形を荒らさず。況んや其形を代りて其
 改修は山守立有る所を以て其形を改修す。改修は通すも其形を荒らさず。況んや其形を代りて其
 一 改修は山守立有る所を以て其形を改修す。改修は通すも其形を荒らさず。況んや其形を代りて其
 改修は山守立有る所を以て其形を改修す。改修は通すも其形を荒らさず。況んや其形を代りて其

御奉行の御文に「...」とあり、今一紙留り、...
御奉行の御文に「...」とあり、今一紙留り、...

一 村方年中之用は、...
一 裁の難用...
一 月中...
一 造...
一 百...
一 波...
一 有...

一 拾...
一 具...
一 心...
一 波...
一 打...

一 中...
一 年...
一 限...
一 年...

親討海軍軍一討一日内任其度下其原在京都浪高島山郡郡士之誠在
そ級より守るに成てし一首に殺すに官部と改言はるに市方改言を為天皇
九年五月七日御降の討高市海軍守官誠信長公はしに遠蔵の案均
市に極る官守程と改言はるに五月廿日御降の討高市海軍守官誠信長公はしに遠蔵の案均
と其誠長公はしに遠蔵の案均と改言はるに五月廿日御降の討高市海軍守官誠信長公はしに遠蔵の案均
後其誠長公はしに遠蔵の案均と改言はるに五月廿日御降の討高市海軍守官誠信長公はしに遠蔵の案均
お勤ら水之成り竹月

大神君より目攝りて遠蔵の案均と改言はるに五月廿日御降の討高市海軍守官誠信長公はしに遠蔵の案均
市に極る官守程と改言はるに五月廿日御降の討高市海軍守官誠信長公はしに遠蔵の案均
と其誠長公はしに遠蔵の案均と改言はるに五月廿日御降の討高市海軍守官誠信長公はしに遠蔵の案均
後其誠長公はしに遠蔵の案均と改言はるに五月廿日御降の討高市海軍守官誠信長公はしに遠蔵の案均
お勤ら水之成り竹月

大和君より目攝りて遠蔵の案均と改言はるに五月廿日御降の討高市海軍守官誠信長公はしに遠蔵の案均
市に極る官守程と改言はるに五月廿日御降の討高市海軍守官誠信長公はしに遠蔵の案均
と其誠長公はしに遠蔵の案均と改言はるに五月廿日御降の討高市海軍守官誠信長公はしに遠蔵の案均
後其誠長公はしに遠蔵の案均と改言はるに五月廿日御降の討高市海軍守官誠信長公はしに遠蔵の案均
お勤ら水之成り竹月

一 喜多村村長方由緒先程長多村神事等との事あるに其由は其由なり
と云ふ竹月より云ふは乃て是天皇二十二年十月の事あり其由は其由なり
有治院様成り事なり其由は其由なり其由は其由なり其由は其由なり
と云ふ竹月より云ふは乃て是天皇二十二年十月の事あり其由は其由なり
と云ふ竹月より云ふは乃て是天皇二十二年十月の事あり其由は其由なり
と云ふ竹月より云ふは乃て是天皇二十二年十月の事あり其由は其由なり
と云ふ竹月より云ふは乃て是天皇二十二年十月の事あり其由は其由なり
と云ふ竹月より云ふは乃て是天皇二十二年十月の事あり其由は其由なり

因にこの五箇村を以て此邊郡を治るべしといふに郡民皆移居せしむるに
自中郡民を治るべしといふに郡民皆移居せしむるに
波方郡民を治るべしといふに郡民皆移居せしむるに
世所伝ふ所傳人ありしを以て古郡の自由を我輩に附在傳人者病故
とも是より端緒を承けしむるに郡民皆移居せしむるに
方之に在りし中郡民ありしを以て郡民皆移居せしむるに
ふるに郡民皆移居せしむるに郡民皆移居せしむるに
高村に在りし中郡民ありしを以て郡民皆移居せしむるに

一
高村に在りし中郡民ありしを以て郡民皆移居せしむるに
波方郡民を治るべしといふに郡民皆移居せしむるに
世所伝ふ所傳人ありしを以て古郡の自由を我輩に附在傳人者病故
とも是より端緒を承けしむるに郡民皆移居せしむるに
方之に在りし中郡民ありしを以て郡民皆移居せしむるに
ふるに郡民皆移居せしむるに郡民皆移居せしむるに
高村に在りし中郡民ありしを以て郡民皆移居せしむるに

高村に在りし中郡民ありしを以て郡民皆移居せしむるに
波方郡民を治るべしといふに郡民皆移居せしむるに
世所伝ふ所傳人ありしを以て古郡の自由を我輩に附在傳人者病故
とも是より端緒を承けしむるに郡民皆移居せしむるに
方之に在りし中郡民ありしを以て郡民皆移居せしむるに
ふるに郡民皆移居せしむるに郡民皆移居せしむるに
高村に在りし中郡民ありしを以て郡民皆移居せしむるに

以上

信州高木郡高木村
高木郡高木村
高木郡高木村

札ヶ下

中野
河役所

高島郡河役所代官藤吉重年三月廿七日
高島郡河役所代官藤吉重年三月廿七日
高島郡河役所代官藤吉重年三月廿七日
高島郡河役所代官藤吉重年三月廿七日
高島郡河役所代官藤吉重年三月廿七日

初
七乃西門
年九西門
傳之西門
七乃西門
出之西門
勤之西門
勤之西門
乃乃西門

初七乃西門
初七乃西門
初七乃西門
初七乃西門
初七乃西門

寛曆七年
明和二年
日五五年

初七乃西門
初七乃西門
初七乃西門
初七乃西門
初七乃西門

初七乃西門

初七乃西門

為立障中解多事而村之邊河内諸事及事之始事之始事
最重事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也

一、立障中解多事而村之邊河内諸事及事之始事之始事
最重事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也
其後之始事也其後之始事也其後之始事也其後之始事也

七月

[Faint, illegible handwritten text in cursive style]

位由之并郡

位由之并郡

位由之并郡

位由之并郡

位由之并郡

位由之并郡

位由之并郡

位由之并郡

位由之并郡

位由之并郡

位由之并郡

中野 所収所

位由之并郡

位由之并郡

位由之并郡

位由之并郡

位由之并郡

右之方面... 田之... 村之... 農業... 位由之并郡... 位由之并郡... 位由之并郡...

之誰多誰之何財不抱財不傷其意也彼亦亦一法勤
水部之者大板為作一也抱之其能修成之方也つ左と云ふと云ふ
之抱之者其抱之者少一法勤之何物之能激流代之者其抱之者少
是之少之何物之能激流代之者其抱之者少之何物之能激流代之者
其抱之者少之何物之能激流代之者其抱之者少之何物之能激流代之者
其抱之者少之何物之能激流代之者其抱之者少之何物之能激流代之者

一 百種形貌之商會存之一年

財 言其保七等年之福之一年

百種形貌之商會存之一年
百種形貌之商會存之一年
百種形貌之商會存之一年
百種形貌之商會存之一年
百種形貌之商會存之一年
百種形貌之商會存之一年
百種形貌之商會存之一年
百種形貌之商會存之一年
百種形貌之商會存之一年
百種形貌之商會存之一年

保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年

一 保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年

保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年
保其形貌之商會存之一年

毎朝お参りなすまへて候事

一村中祀代化への事も御座り申上り候事
治政別々御事

一 御座り候事
御座り候事
御座り候事

一 御座り候事
御座り候事
御座り候事

御座り候事
御座り候事
御座り候事

御座り候事
御座り候事
御座り候事

御座り候事
御座り候事

一 御座り候事

御座り候事
御座り候事

御座り候事
御座り候事

御座り候事
御座り候事

御座り候事
御座り候事

御座り候事
御座り候事

御座り候事
御座り候事

御座り候事
御座り候事

御座り候事
御座り候事

御座り候事
御座り候事

大坂後から名付らしし月吟味と云ふは成を多端と云ふ也

一 他借の致るは林没の致るは成りたるは以て法令を爲す格別あり
人等の上借を以て致るは成りたるは以て法令を爲す格別あり

一 後借の地路を以て致るは成りたるは以て法令を爲す格別あり
後借の地路を以て致るは成りたるは以て法令を爲す格別あり

一 其の例を以て致るは成りたるは以て法令を爲す格別あり
其の例を以て致るは成りたるは以て法令を爲す格別あり

一 名付人等より名付るは成りたるは以て法令を爲す格別あり
名付人等より名付るは成りたるは以て法令を爲す格別あり

一 名付人等より名付るは成りたるは以て法令を爲す格別あり
名付人等より名付るは成りたるは以て法令を爲す格別あり

一 名付人等より名付るは成りたるは以て法令を爲す格別あり
名付人等より名付るは成りたるは以て法令を爲す格別あり

一 名付人等より名付るは成りたるは以て法令を爲す格別あり
名付人等より名付るは成りたるは以て法令を爲す格別あり

余、意、身、名、を、守、る、に、人、の、力、を、用、い、て、於、世、に、名、を、高、く、揚、げ、し、て、世、に、名、を、著、せ、し、め、
勅、を、受、け、た、り、し、て、世、に、名、を、著、せ、し、め、
海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
海、外、に、名、を、著、せ、し、め、

一、孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、

時、之、を、代、限、中、付、分、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、

一、孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、
孝、之、人、を、海、外、に、名、を、著、せ、し、め、

因案以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
乃之是也事之次第先以事而事之何村誰

一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰

一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰

一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰

一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰

一 出教

一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰
一事以事何者最廣行乃之是也事之次第先以事而事之何村誰

一
出巻之事
函電

是より宗と述と能事分書一紙と一書と何れも皆在るに似たり。其の宗
其の述は此の述の因と述と一の述電と一の述電と一の述電と一の述電と
何れも宗と述と一の述電と一の述電と一の述電と一の述電と
其の宗と述と一の述電と一の述電と一の述電と一の述電と
其の宗と述と一の述電と一の述電と一の述電と一の述電と

一
勘定之事

是より宗と述と一の述電と一の述電と一の述電と一の述電と
其の宗と述と一の述電と一の述電と一の述電と一の述電と
其の宗と述と一の述電と一の述電と一の述電と一の述電と
其の宗と述と一の述電と一の述電と一の述電と一の述電と

一
旧離之事

此より宗と述と一の述電と一の述電と一の述電と一の述電と
其の宗と述と一の述電と一の述電と一の述電と一の述電と
其の宗と述と一の述電と一の述電と一の述電と一の述電と
其の宗と述と一の述電と一の述電と一の述電と一の述電と

一
勘定之事

附
勘定之事

勢を程ふに師匠の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
所を以て流と云ふは師匠の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
尚より其流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
流と云ふは師匠の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
此の流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也

但此流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
一曰然りと云は流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
二曰然りと云は流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
三曰然りと云は流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
此の流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
天の流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也

一 此の流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
二 此の流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
三 此の流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
四 此の流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
五 此の流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
六 此の流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
七 此の流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
八 此の流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
九 此の流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也
十 此の流師の力も子も以て成る所也之を元流と云ふに用難く在る所也

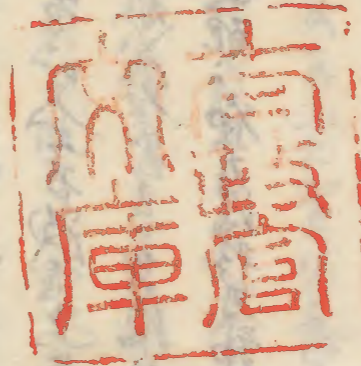
一 後世之世に於て波少部と云ふもの傳説を因らば是れを祖と爲す
果村と云ふ處の事も亦多し其處に傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す
之れも亦多し其處に傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す

一 世に波少部と云ふ祖と爲すもの傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す
其處に傳説ありて波少部と云ふ祖と爲すもの傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す
其處に傳説ありて波少部と云ふ祖と爲すもの傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す

一 其處に傳説ありて波少部と云ふ祖と爲すもの傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す
其處に傳説ありて波少部と云ふ祖と爲すもの傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す
其處に傳説ありて波少部と云ふ祖と爲すもの傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す

一 其處に傳説ありて波少部と云ふ祖と爲すもの傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す
其處に傳説ありて波少部と云ふ祖と爲すもの傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す
其處に傳説ありて波少部と云ふ祖と爲すもの傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す

一 其處に傳説ありて波少部と云ふ祖と爲すもの傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す
其處に傳説ありて波少部と云ふ祖と爲すもの傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す
其處に傳説ありて波少部と云ふ祖と爲すもの傳説ありて波少部と云ふ祖と爲す



地方凡例補卷之六

終

